
伝心

ガリマツチヨ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

伝心

【Nコード】

N7212D

【作者名】

ガリマツチヨ

【あらすじ】

樹と少年、という気持ちが通じるはずのない世界を描きました。

「樹」

俺は樹。

なんの変哲もないただの樹。

約五十年間、道路から五メートル程離れた場所に根を張っている。生きがいは、登下校をする子供達を見る事。あの笑顔が何よりの楽しみだ。

ある日、一人の小学生が下校の時間より早く帰ってくるのが見えた。

小走りで俺に駆け寄ってきて、小さな腕で懸命にしがみつき、わんわんと泣き始めた。…困った。どうにかしてあげたいが、樹だけになにもしてやれない。

聞こえるはずもないが、

「どうしたんだい？おじさんに話してごらん。」と囁いた。すると少年は突然泣きやみ、辺りをキョロキョロし始めた。

少年はふと上を見上げた。しばらく見上げていたが、やがてその場に座り込んだ。

もしかして俺の声が聞こえたのか？いや、それは有り得ない。だがもう一度少年に囁きかけた。

少年はすかさず立ち上がり、上を見上げてこう言った。

「おじさん！僕の話聞いてくれるの？」

なんと！声は聞こえてはいないはずなのにまさか通じるとは…

少年の純粋な心と、誰かに話したいという気持ちが強かったからだろうか…

少年、いや、仁志は小学二年生。声が高く、純心無垢な子だ。

友達が多い方では無く、学校では一人にいる事も珍しくないらしい。そんな仁志が休み時間中に絵を書いていると、賢司（ガキ大将らしい）と弘樹（賢司の子分的存在）が来て、

「お前絵ばっかり書いてるから友達少ないんだよ！女みたいなやつだな！たいして上手くもないしな！」

と言われたらしい。

仁志は自分の絵に自信を持っているだけに、絵の事を言われると無性に腹が立ち、賢司に殴りかかった。

その手は鼻にクリーンヒットし、鼻血が吹き出た。

すぐさま先生が駆け付け、

「暴力はあかん！仁志、謝り！」

とまあ聞いた限りではこんな感じで仁志はへこんでいたのだった。

だが喋って満足したのか仁志はすっかり元気を取り戻し、軽やかな足取りで歩いていった。

小学生は立ち直りが早いな、と感心した。

次の日から、仁志は毎日のように俺の元に来るようになった。

学校であった出来事、好きな子の話、先生に褒められた事…。

一生懸命喋る仁志の話を聞いているとこっちまでその風景が浮かんできそうだ。

ある日、道の向こう側に仁志と、そのやや後ろに二人の男の子が歩いてくるのが見えた。

仁志がなにやらそわそわしている様に見えた。

信号が青に変わるのを落ち着きがなく待っている。

青に変わり、仁志はダッシュした。そんなに慌てたら危ないぞ…。

キーッドンッ！

・・・俺の足元に小さな靴が片一方転がってきた。それを見つめ、仁志の方は見なかった。

見れなかった。

仁志は生きている。その想いを胸に…。

翌日俺の足元には沢山の花束が祭られていた。数多くの人がお参りに来た。

仁志は愛されていたんだなと心から思った。

その中に一人、朝早くからずっといた女性がいた。

その女性はこう言っていた。

「近頃の仁志はとても楽しそうにあなたの事を喋ってましたよ。あなたのおかげであんな元氣な仁志を見て感謝しています。」

仁志のお母さんだった。何か話しても多分伝わらないだろう、と思いい口をつぐんだ。

それから俺は、子供が来ても話し掛ける事はなくなった。

仁志の二の舞だけはもうしたくない。

再びただの樹としてこの先も根を張り生きてゆくだろう・・・

「樹」(後書き)

今回は樹からの視点で描きました。仁志からの視点でも描くのでは是非見てください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7212d/>

伝心

2011年1月28日03時27分発行